

令和2年度 宇都宮市立雀宮東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤として、新たな時代をたくましく創造的に生きていくことのできる、心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな児童を育成する。

・目指す児童像

1 豊かな人間性の育成

《心豊かで素直な子》

自他の生命を尊重し、健康で安全に行動するとともに、社会の中でたくましく生きていくことのできる能力や態度を育成する。

2 自ら学ぶ能力や態度の育成

《よく考え進んで学ぶ子》

自らよく考え正しく判断し、創意工夫して的確に行動し、全力を出すことのできる能力や態度を育成する。

3 体力と気力の増進

《健康でがんばる子》

自らの健康に関心を持ち、心身ともに健やかな体を育めるような能力や態度を育成する。

4 自主的・自律的な態度の育成

《決まりを守り責任を果たす子》

学校集団の中で自分のよさを知り、よさをより以上に伸ばそうとしたり、集団の一員としてよりよい生活を築こうとしたりする能力や態度を育成する。

（合言葉）

すなおで

かしこく

たくましく

責任果たす ひがしの子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

雀宮東小学校の歴史と伝統を重んじ、「すなおで かしこく たくましく 責任果たす ひがしの子」の育成を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、創意工夫をこらした教育活動を展開し、誰もが安心して学べ、活力にあふれる、地域とともにある学校づくりを推進する。

・目指す学校像

◆楽しく充実した居がい感のある学校 ◆子供と教師が共に育つ学校 ◆地域とともにある魅力ある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○（1）《活力あふれる楽しい学校づくり》

児童一人一人のよさを認め、児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校づくりに努める。児童一人一人を大切にする教育を具現化するため、地域や児童の実態に即した創意工夫ある教育課程の編成に努める。また、教育者としての愛情と使命感をもった教師力の向上に努める。

・特色ある教育課程の編成・運用・改善

★教職員の資質の向上

★認め励ます教育の充実

・学年、学級経営の充実

○（2）《豊かな心の育成》

全教職員の共通理解のもと、のみどり活動を中心とした体験活動を充実させるとともに、道徳教育・読書活動の充実を図り、児童一人一人に感謝の心や思いやり、想像力などの豊かな心を養う。

・体験活動の工夫と充実

・特別の教科「道徳」の充実

・読書活動の推進

○（3）《確かな学力の定着》

分かる授業の展開と基礎・基本の確実な定着、学び合う時間の充実に努め、児童一人一人の学ぶ意欲を高めるとともに確かな学力の定着を図る。

・学びに向かう力の育成（知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等）

・基礎・基本の定着

・自分の考えを深める学習の充実

・家庭学習の習慣化

（4）《健やかな体の育成》

教科体育を核に体力・気力を養う教育の充実を図り、健康で安全に生活できる能力・態度を育成する。

・基礎体力の育成

・教科体育の工夫と充実

・危機回避能力の育成

○（5）《児童指導の充実》

決まりやマナーを守り、いじめを許さず、児童一人一人が自分で考え行動しようとする態度を育てる。

★規範意識の醸成

・いじめを許さない態度の育成

・不登校対策の取組の充実

（6）《特別支援教育の充実》

特別支援教育の視点に立った授業改善を図り、全校体制で配慮を要する児童への支援の工夫に取組む。

★特別支援教育の視点に立った授業改善

・特別な支援を要する児童への支援の充実

○（7）《地域とともにある学校づくり》

家庭・地域・地域学校園との連携を密にし、地域の教育力を生かした学校づくりに努める。

・地域との交流活動の充実 ★情報の効果的な発信 ★雀宮地域学校園における小中一貫教育の推進

〔雀宮地域学校園教育ビジョン〕

一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通して～

(8)《勤務時間を意識した働き方の推進》

新しい時代の教育に向けた学校における働き方の推進に向けて、適切な勤務時間の設定ができるよう改善を図り、校内の業務の効率化・簡略化に努めるなど学校運営の適正化に努める。

★校内業務の適正化・効率化

★月1回の「プレミアムフライデー」（特別日課 ノー残業デー）の導入

★保護者や地域の教育資源等の有効活用

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領等の教育関係諸法令並びに「とちぎ教育振興ビジョン」「宮っこ未来ビジョン」「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」等の示すところに従い、公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
- (2) 本校創立以来146年の歴史と伝統を踏まえ、児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

学校・家庭・地域の連携を基盤とし、児童一人一人が自らのよさを発揮しながら生き生き学べる学校づくりを推進する。校内の業務の適正化に努め、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【学習指導】

友達との関わりの中で、学び合う力を育む授業の工夫～個の学びを生かした話し合い活動を通して～

【児童生徒指導】

- 豊かな心と正しい判断力をもち、自ら進んで行動できる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 生涯を通じて健康な体を維持し、体力・気力を向上していくための基盤づくり

～自分の健康に関心を持ち、進んで健康・体力の増進に励むとともに、自他の安全に配慮できる児童の育成～

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	表中数字：上段は令和1年度 下段は令和2年度 太数字：前年度比±5ポイント												
	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 「学習のきまり」を効果的に活用しながら、基本的な学習態度の定着を図る。 ② 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的な方策を工夫し実践するとともに、振り返りの時間を設けることで、授業力を高め、学力向上を図る。 ③ 授業において、子ども一人一人が自分の考えをもち、友達の意見を比べて聞くことで、自分の考えを深める学習が行えるようにする。 ④ 「家庭学習の進め方」を効果的に活用しながら、学習習慣の定着を図る。また、家庭学習パワーアップウィークを実施し、保護者の理解と協力を得る。	B	【達成状況】A1（◎） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.2</td><td>100</td><td>90.8</td><td></td></tr><tr><td>96.7</td><td>100</td><td>93.3</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が昨年度より0.5ポイント上回り、数値目標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率は100%であり、保護者の肯定的回答率も昨年度より2.5ポイント上回り、高い値を示している。 【次年度の方針】 ・①については、これからも「学習のきまり」を効果的に活用しながら、基本的な学習態度の定着を図る。 ・②については、今後も、学年の発達に応じたノート指導、自分の考えや意見を整理し考える時間の確保、根拠を明確にしながら発表できる場の設定など、進んで発表する力を付ける指導を推進する。 ・③については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、「自分の考えを深める学習」や「教師のコーディネートにより、児童同士が話し合ったり、聞き合い伝え合ったりする活動」を意図的に設定し、児童同士のよりよい学び合いが	児童	教職員	保護者	地域	96.2	100	90.8		96.7	100	93.3	
				児童	教職員	保護者	地域									
96.2	100	90.8														
96.7	100	93.3														

目 指 す 児 童 の 姿				成立するようにする。 ・④については、現状として、「家庭学習の進め方」を効果的に活用しながら、学習習慣の定着を図っている。次年度も保護者の理解と協力を得て学習習慣の定着を図る。												
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 8 0 %以上	① 「よい子の一日」「よい子の学習のきまり」を活用して、帰りの会等で毎日の活動を振り返り、誰に対しても優しく、思いやりの心をもって、規律ある学校生活を送れるようにする。 ② 学級活動、道徳の時間等において、言葉遣いの大切さについて計画的に指導する。 ③ 友達同士で呼び合うときに「～さん」を付けることを指導する。 ④ 保護者・地域住民に特別の教科「道徳」への理解と協力を得るため、授業参観で全学級授業公開する。	B	【達成状況】A2 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>89. 5</td><td>100</td><td>93. 1</td><td>100</td></tr><tr><td>94. 5</td><td>100</td><td>94. 3</td><td>93. 3</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が昨年度より 5 ポイント上回り、数値目標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率は 100%であり、保護者の肯定的回答率も昨年度より 1.2 ポイント上回った。一方、地域の肯定的回答率は昨年度より 6.7 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度と同様、「よい子の一日」「よい子の学習のきまり」を活用して、児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう指導したり、いじめゼロ運動やあいさつ運動を行ったり、帰りの会等で毎日の活動を振り返り、児童が授業と生活のきまりやマナーを守った学校生活を送れるようにする。 ・②については、「学校だより」「学年だより」、学年懇談の際に、学年に応じた具体的な場面を例に挙げて保護者に啓発を行う。 ・③については、今後も友達同士で呼び合うときに「～さん」を付けることを指導するとともに、教師が範を示していく。 ・④については、これからも、道徳教育への保護者の理解を深めるため、授業参観において全学級で授業を公開する。	児童	教職員	保護者	地域	89. 5	100	93. 1	100	94. 5	100	94. 3	93. 3
	児童	教職員		保護者	地域											
	89. 5	100	93. 1	100												
94. 5	100	94. 3	93. 3													
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 8 0 %以上	① 「よい子の一日」を効果的に活用しながら、時と場に応じた言葉遣いや目上の人に対する言葉遣いについて指導する。 ② 生活目標の周知や振り返りの仕方などについて、児童が主体となった活動を展開して、児童一人一人がきまりやマナーを意識して生活できるようにする。	B	【達成状況】A3 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>89. 2</td><td>100</td><td>94. 2</td><td>94. 1</td></tr><tr><td>94. 2</td><td>100</td><td>96. 5</td><td>100</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者、地域の肯定的回答率が、昨年度より高くなった。特に、児童の肯定的回答率は、昨年度より 5 ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、教職員での情報交換の時間を毎月実施し、児童理解を深める。教職員が率先して元気な挨拶を心掛け、範を示す。 ・②については、今後とも、生活目標の周知や帰りの会等での振り返りの仕方などについて、児童が主体となった活動を展開して、一人一人がきまりを意識して生活できるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	89. 2	100	94. 2	94. 1	94. 2	100	96. 5	100	
児童	教職員		保護者	地域												
89. 2	100	94. 2	94. 1													
94. 2	100	96. 5	100													
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答 8 0 %以上	① 集会等の活用、掲示物や生活当番による呼びかけなどを通して、あいさつの大切さについて児童への啓発を行い、児童の意識を高める。 ② 当番学級によるあいさつ運動を実施し、児童の意識を高める。 ③ 地域学校園と連携したあいさつ運動強化週間を実施し、児童の意識啓発を図る。 ④ 保護者・地域の方など、来校者への積極的なあいさつを推進していく。	B	【達成状況】A4 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>94. 4</td><td>100</td><td>86. 0</td><td>100</td></tr><tr><td>96. 4</td><td>100</td><td>81. 9</td><td>100</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答率は昨年度より 4.1 ポイント下回ったが、数値目標は達成した。児童の肯定的回答率は、昨年度より 2 ポイント上回り、96. 4%である。 【次年度の方針】 ・①については、これからも、学校・家庭・地域が協力しながら、あいさつの活性化に向けて指導していく。昨年度同様、成果が分かるように一覧表を付けることで、家庭に啓発を行うと共に、子供たちから進んで挨拶をするように意識付けを図る。 ・②については、あいさつの場面では「いつでも どこでも	児童	教職員	保護者	地域	94. 4	100	86. 0	100	96. 4	100	81. 9	100	
児童	教職員		保護者	地域												
94. 4	100	86. 0	100													
96. 4	100	81. 9	100													

			だれにでも「何度でも」を教職員が率先して行う。児童の地域住民の方々へのあいさつについて、長期休業前には、地域の方々へのあいさつを心掛けるように指導する。 ・③については、雀宮地域学校園と連携したあいさつ運動強化週間に合わせて、「進んであいさつしよう週間」を実施する。 ・④については、各教室の廊下にあいさつのパネルを掲示し、生活当番による呼びかけなどを通して、あいさつの大切さについて児童や来校者への啓発を図る。												
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>小テストや家庭学習等を通して、国語力や計算力の定着を図る。</u> ② <u>運動能力検定表（水泳・鉄棒・なわとび）やマラソンカードの積極的な活用を図る。</u> ③ 「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の良さや努力などを認め励ます教育を推進する。	B	【達成状況】A5（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>90.9</td><td>100</td><td>76.8</td><td></td></tr><tr><td>92.7</td><td>100</td><td>78.0</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は昨年度より 1.8 ポイント上回り、数値目標を達成した。教職員の肯定的回答率は 100%である一方、保護者の肯定的回答率は 78.0%である。 ・家庭との連携を図りながら、目標に迫るような手立ての工夫を検討する必要がある。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、朝の学習の時間を活用した取組（すずどんチャレンジ）を継続していく。 ・②については、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むために、うつのみや元気っ子チャレンジに参加するよう呼びかけるとともに、体力向上への意欲が継続するよう、健康や体力についての記録を知らせるとともに、学校だより・学年だより・ホームページなどで保護者への啓発活動に努める。今後も、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。また地域学校園で共通の検定カードを活用し、児童が9年間を見通し、継続的に運動に取り組めるよう工夫する。 ・③については「宮っ子心の教育表彰」等の活用や児童の良さ・努力などを認め励ます具体的な指導法を工夫する。	児童	教職員	保護者	地域	90.9	100	76.8		92.7	100	78.0	
児童	教職員		保護者	地域											
90.9	100	76.8													
92.7	100	78.0													
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 運動量を確保した体育の授業（サーキットトレーニング）や休み時間等、一日一回は外遊びができるように努める。（運動ミニマム・元気っ子チャレンジ達成への継続的な指導） ② 「元気なときは歩いて登下校」の指導を全教職員共通理解のもと推進していく。 ③ 食育だより、保健だよりの配付や継続的な指導を通して、正しい食習慣を身に付け、健康の保持・増進に努めようとする態度を育てる。 ④ 学校栄養士の授業への参画や、お昼の校内放送での「給食一口メモ」により、児童の栄養についての意識を高める。	B	【達成状況】A6（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>93.7</td><td>100</td><td>87.8</td><td>100</td></tr><tr><td>94.5</td><td>100</td><td>92.3</td><td>93.3</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が昨年度より 0.8 ポイント上回り、数値目標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率は 100%であり、保護者の肯定的回答率も昨年度より 4.5 ポイント上回り、高い値を示している。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も、体育的な行事に合わせて、各種検定を実施したり、体力を向上させるような環境を整備したり、体力向上への意欲や運動の習慣化を図る。 ・体力テストの結果分析をもとに、バランス良く運動能力を高めていくようにする。特に、瞬発力・筋力を高めるための補助運動を取り入れるようにする。 ・②については、児童の健康や安全を考慮し、「元気なときは歩いて登下校」の指導を全教職員共通理解のもと推進していく。 ・③については、食育について日常的に給食を中心とした指導を行うとともに、食育便りや保健便りの発行に取り組み、児童の好ましい食習慣や食事のマナーを家庭と共有する。さらに、お弁当の日の実施により、家庭と協働して、児童、保護者の食への関心を高める。これからも望ましい食習慣と食事マナーが身に付くよう、9年間を見通した「食育マナー週間」を家庭と連携しながら進める。 ・④については、食育だよりを継続的に発行し、苦手な物でもバランスを考えて、今後も一口でも食べるという共通指導を継続する。学校栄養士の授業の参画を通し、バランスの	児童	教職員	保護者	地域	93.7	100	87.8	100	94.5	100	92.3	93.3
児童	教職員	保護者	地域												
93.7	100	87.8	100												
94.5	100	92.3	93.3												

			良い食生活や好き嫌いせずに食べる指導を、家庭との連携を図りながら継続的に行う。また、バランスのとれた食事の摂取と、肥満対策について学校医と協働して取り組む。さらに、委員会活動等で、地産地消の紹介をするなどし、食に対する興味関心を高めていく。												
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。	① 「すなおで かしく たくましく 責任果たす ひがしの子」の合言葉を意識させ、よりよく成長しようとする意欲を高める。 ② 児童（保護者）と教師との信頼関係を構築するとともに、お互いによさを認め合う学級経営を図り、自己肯定感や自己有用感を高める。 ③ 全職員共通理解のもと、「宮っ子心の教育」を推進するとともに、「特別の教科 道徳」の授業を通し、自分自身を見つめながら社会と繋がることの大切さを考える心情を育てる。	B	【達成状況】A5 (○)												
【数値指標】 再掲 A 5 全体アンケートの「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献している。」⇒児童の肯定的回答 80%以上			<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>90.9</td><td>100</td><td>76.8</td><td></td></tr><tr><td>92.7</td><td>100</td><td>78.0</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は昨年度より 1.8 ポイント上回り、数値目標を達成した。教職員の肯定的回答率は 100%である一方、保護者の肯定的回答率は 78.0%である。 ・家庭との連携を図りながら、目標に迫るような手立ての工夫を検討する必要性がある。	児童	教職員	保護者	地域	90.9	100	76.8		92.7	100	78.0	
児童	教職員		保護者	地域											
90.9	100	76.8													
92.7	100	78.0													
		【次年度の方針】 ・①については、次年度も今年度の取組を継続し、「すなおで かしく たくましく 責任果たす ひがしの子」の合言葉をより一層意識させ、よりよく成長しようとする意欲を高める。委員会活動を有効に活用し、代表委員会の活動内容を明確にし、自分たちの力でより良い学校にする意識付けを図る。 ・②については、これからも児童と教師との信頼関係を構築するとともに、お互いに良さを認め合う学級経営を図り、自己肯定感や自己有用感を高める。 ・③については、全職員共通理解のもと、「宮っ子心の教育」を推進するとともに、「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」等の授業を通し、家庭や地域の教育力を生かし、児童が夢や目標をもって、社会に貢献できるよう、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいく。													
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。	① 外国語活動の授業やALTとの交流の際に、教員が英語を使うとともに、ALTを積極的・効果的に活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ② 外国語活動を通して、異なる文化や習慣を理解し、それらを尊重することができるよう能力や態度の育成を図る。	B	【達成状況】A8 (○)												
【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上			<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>91.3</td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>90.5</td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は昨年度より 0.8 ポイント下回ったが、数値目標を達成した。教職員の肯定的回答率は昨年度より 4.3 ポイント上回り、100%であった。	児童	教職員	保護者	地域	91.3	95.7			90.5	100		
児童	教職員		保護者	地域											
91.3	95.7														
90.5	100														
		【次年度の方針】 ・①については、児童自身が外国語活動の学習のねらいや見通しをつかむことができるよう、教職員が明確な課題の提示を工夫するとともに、これからも、教材教具の工夫について、教職員間で学び合い、授業力の向上に努める。 ・②については、外国語で表現し伝え合うために、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。													
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。	① 生活科や社会科、音楽、総合的な学習の時間「宇都宮学」等、「特別な教科 道徳」において、雀宮地区や宇都宮市など、地域を教材にした学習を実施する。 ② 街の先生や地域ボランティア等による読み聞かせや校外学習、農業体験学習など、地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。 ③ 地域協議会を有効活用し、地域コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・	B	【達成状況】A9 (○)												
【数値指標】 全体アンケートの「児童は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上			<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>86.4</td><td>100</td><td>51.2</td><td></td></tr><tr><td>86.5</td><td>94.4</td><td>59.3</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は数値目標を達成した。教職員の肯定的回答率は昨年度より 6.6 ポイント下回り 94.4%である一方、保護者の肯定的回答率は昨年度より 8.1 ポイント上回り 59.3%である。 ・保護者にも宇都宮の良さが評価されるような具体的な指導法等の工夫を、引き続き検討する必要がある。	児童	教職員	保護者	地域	86.4	100	51.2		86.5	94.4	59.3	
児童	教職員		保護者	地域											
86.4	100	51.2													
86.5	94.4	59.3													
		【次年度の方針】 ・①については、社会科や総合的な学習の時間での「宇都宮学」や「特別な教科 道徳」の地域教材を通し、雀宮地区や宇都宮市を教材にした学習を実施し、宇都宮の良さを実感													

		家庭・地域との連携，協力を深める。		させる。 ・②については，全教職員が，地域の人材や施設・設備等の教育力を生かし，教材研究と授業研究を中心とした授業力の向上に取り組み，今後も学習指導の充実に努める。 ・③については，今後も，地域協議会や地域学校協働活動推進員の協力を得て，地域の行事に児童が参加する機会を確保しながら地域の人と触れ合うことを通して，思いやりの心や社会性の育成を図る。												
A10 児童は，I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は，パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 8 0 %以上	① <u>学習意欲の向上や学力の定着を目指し，教材・教具，I C Tの活用による分かりやすい授業の展開に努める。</u> ② <u>情報教育担当がプログラミングや I C T活用法に関する研修を計画的に行い，教職員の資質・能力の向上を目指す。</u> ③ <u>読書への関心・意欲を一層高めるため，司書教諭による読み聞かせやパネルシアターを開催する。</u>		A	【達成状況】A10 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>91.6</td><td>100</td><td>74.0</td><td></td></tr><tr><td>94.2</td><td>100</td><td>74.7</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が昨年度より 2.6 ポイント上回り，数値目標を達成した。教職員の肯定的回答率は 100%である一方，保護者の肯定的回答率は 74.7%である。 ・保護者への啓発の仕方を工夫するとともに，I C T機器や図書等を活用する教職員からの働きかけを一層推進する必要性がある。 【次年度の方針】 ・①については，これからも，学校課題研究として取り組んできた教材・教具や I C Tの活用，さらに学習形態の工夫や授業改善により，分かりやすい授業展開の定着を図る。 ・②については，GIGA スクール構想により導入されるタブレット型パソコンの授業における効果的な活用方法について研究するとともに，それに必要な教職員の I C T活用指導能力の向上に全校体制で取り組む。 ・③については，今後も，朝の読書の時間を確保するとともに，読書週間に魅力ある企画したりボランティアによる読み聞かせやパネルシアターを実施するなどして，読書に親しませる工夫をする。また，家庭への啓発を行うため，「家読」の活用を行う。	児童	教職員	保護者	地域	91.6	100	74.0		94.2	100	74.7	
児童	教職員	保護者	地域													
91.6	100	74.0														
94.2	100	74.7														
A11 児童は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 再掲 A 2 全体アンケートの「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 8 0 %以上	① 学級活動，道徳の時間等において，言葉遣いの大切さについて計画的に指導する。 ② 高齢者の方に感謝の気持ちを持ち，その気持ちを文章で表す。		B	【達成状況】A2 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>89.5</td><td>100</td><td>93.1</td><td>100</td></tr><tr><td>94.5</td><td>100</td><td>94.3</td><td>93.3</td></tr></table> ・児童，教職員，保護者，地域の肯定的回答率が 90%を上回り，高い値を示している。特に，児童の肯定的回答率は，昨年度より 5 ポイント上回り，数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については，高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心が育つよう，全教職員の共通理解のもと，授業中や学校生活におけるいろいろな場面で，場に応じた言葉づかいができるよう継続的に指導し，児童が正しい言葉づかいができるようにする。特に，道徳を要とし，目上の人への言葉づかいとあいさつについて，教職員との会話等を通して，日常的に指導する。 ・②については，高齢者との交流の場において，感謝の気持ちが育つよう，今後も雀宮地域学校園で連携し，児童生徒指導に協力的に取り組む。さらに，日常の継続的な言葉づかいについて，子ども一人一人に考えさせながら，時と場に応じた言葉づかいの意識化を図るだけでなく，家庭や地域からも児童の様子を伝えていただくことで，学校・家庭・地域が一体となってより一層指導の充実に図っていけるようにしていく。	児童	教職員	保護者	地域	89.5	100	93.1	100	94.5	100	94.3	93.3
児童	教職員	保護者	地域													
89.5	100	93.1	100													
94.5	100	94.3	93.3													

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。	【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 種まき、田植え、稲刈り、どんど焼き等、のみどり活動に取り組み、自然への感謝の気持ちを培う教育活動に取り組む。 ② 避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなどして、体験活動を通した安全教育を推進する。さらに、様々な災害時における避難方法を保護者に周知し、連携を図る。 ③ クリーン活動やPTA奉仕作業、毎日の給食ゴミのリサイクル等、環境維持を意識させる教育活動に取り組む。	B	【達成状況】A12 (○)												
				<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>89.9</td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>95.3</td><td>94.4</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率が90%を上回り、高い値を示している。特に、児童の肯定的回答率は昨年度より5.4ポイント上回り、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き、新型コロナウイルス感染症の今後の状況を見据えながら、種まき、田植え、稲刈り、どんど焼き等、のみどり活動において、PTA、地域協議会、のみどり隊等の協力を得るなどして、児童が自然への感謝の気持ちを培う活動の場を確保していく。 ・②については、これからも、意図的・計画的に、避難訓練や交通安全教室等を実施するなどして、児童の安全・安心を第一に、体験活動を通した安全教育を推進する。 ・③については、今後とも、環境維持を意識させる教育活動に取り組むとともに、家庭との連携を図り、活動の充実に努める。	児童	教職員	保護者	地域	89.9	95.7			95.3	94.4		
児童	教職員	保護者	地域													
89.9	95.7															
95.3	94.4															
B1 児童は、様々な教育活動に主体的に取り組んでいる。	【数値目標】 全体アンケートの「児童は、学校行事や縦割り班、児童活動に主体的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① <u>運動会や遠足、縦割り班での活動、児童会活動等において、児童の意見を反映させたり主体的な活動の場を設定したりする。</u> ② 代表委員会の活動を通して、児童が自分たちの力で学校を良くしていこうとする意識をもてるようにする。 ③ <u>児童の自己肯定感を高めるため、良さを認め、励まし、称賛する機会を増やす。</u>	B	【達成状況】B1 (◎)												
				<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>95.1</td><td>100</td><td>96.7</td><td></td></tr><tr><td>97.8</td><td>100</td><td>96.8</td><td></td></tr></table> ・児童、教職員、保護者の肯定的回答率が95%を上回り、高い値を示している。特に、児童の肯定的回答率は昨年度より2.7ポイント上回り、数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度と同様、高い数値であった。昨年度に引き続き、縦割り班での人間関係づくりや、児童の意見を反映させた児童主体の児童会の活動に取り組んでいく。 ・②については、児童会を中心に、縦割り班活動における交流活動の機会を意図的に設定し、本校の良さを生かした特色ある教育活動を推進する。 ・③については、今後も、児童を認め励ます場や児童が相互に認め合う場を設定し、児童の自己肯定感を高めていく。さらに、PDCAを行い、教育課程の反省・改善点を次年度に生かし、より良い計画立案とその推進に努める。	児童	教職員	保護者	地域	95.1	100	96.7		97.8	100	96.8	
児童	教職員	保護者	地域													
95.1	100	96.7														
97.8	100	96.8														
B2 児童は、歯の健康に関心をもち、食後進んで歯みがきをしている。	【数値指標】 全体アンケートの「私は食後歯みがきをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 ※アンケート結果、教職員による観察結果等から総合的に評価	① <u>歯みがきタイム（黒板掲示資料と歯みがき動画）を確保し給食後のブラッシングの継続と推進を図る。（学校生活の制限緩和後に実施。）</u> ② 養護教諭や学校歯科医、学級担任が連携して、健康への関心を高める指導の工夫をする。 ③ 保健だよりに歯の健康に関する情報を載せ、歯みがきの習慣化やむし歯の早期治療についての啓発を図る。 ④ 歯みがきカレンダーを活用しながら歯みがきへの関心を高める。	A	【達成状況】B2 (○)												
				<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>99.3</td><td>100</td><td>77.0</td><td></td></tr><tr><td>95.6</td><td>100</td><td>77.0</td><td></td></tr></table> ・教職員、保護者の肯定的回答率は、それぞれ100%、77.0%で昨年度と同様であった。一方、児童の肯定的回答率は昨年度より3.7ポイント下回り95.6%となり、数値目標を達成した。 ・児童の好ましい歯みがきの習慣化やむし歯の早期治療について、保護者にも評価されるような具体的な指導法等の工夫を検討する必要がある。 【次年度の方針】 ・①については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、引き続き、歯みがきタイムを確保していく。養護教諭が作成したビデオを活用し、しっかりと歯磨きができるよう指導するなどして、児童の健康の保持増進に努める。 ・②については、歯の健康について、毎日の歯みがきタイムを活用した指導を行うとともに、保健便りの発行に取り組み、児童の好ましい歯みがきの習慣化やむし歯の早期治療について啓発を図る。さらに、食後のブラッシングの継続と推進について、家庭と協働して、児童の歯の健康への関心を高める。	児童	教職員	保護者	地域	99.3	100	77.0		95.6	100	77.0	
児童	教職員	保護者	地域													
99.3	100	77.0														
95.6	100	77.0														

				・③については、これからも、う歯治療率を上げていけるよう、積極的に保健だよりで知らせたり、長期休業の前に個別に治療勧告をししたりするなど、家庭への啓発を図っていく。 ・④について、歯磨きカレンダーや染め出しの活用により、家庭と連携しながら、歯磨きへの関心を高めていく。												
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	① ケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、児童一人一人のニーズに応じた指導を行う。 ② ユニバーサルデザインの視点にたった授業展開を行い、どの児童にも分かる授業を目指す。 ③ 授業の始めに本時のめあてを明示し、児童自身が学習の見通しをもって、授業に臨めるようにする。 ④ 普通学級、かがやき、にじいろ（特別支援学級）、のみどり（通級）の連携を効果的に行い、特別支援教育の充実を図る。	B	【達成状況】A13（◎） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度同様に100%であり、数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も、児童一人一人のニーズを踏まえ、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討した上で、家庭との連携を図り、学習に取り組ませる。 ・②については、これからも、これまでの本校の研究の成果を生かし、ユニバーサルデザインの視点に立った授業展開を行い、どの児童にも分かる授業を目指す。 ・③については、分かる授業の実現に向けて、学習意欲の向上をめざした分かりやすい授業展開に取り組んでいくとともに、家庭学習の習慣化と質の向上も図る。 ・④については、次年度も継続して、朝の活動における「すずどんチャレンジ国語・計算」の全職員による支援体制を行い、基礎・基本の定着を図る。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
	児童	教職員	保護者	地域												
		100														
	100															
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① いじめ防止基本方針に基づき、全教職員が共通理解のもと、日頃から情報交換を行い、全校体制でいじめ根絶に取り組む。 ② 年間4回のアンケート調査や教育相談、Q－Uを活用して、いじめの早期発見・解消に努める。 ③ いじめ根絶標語の募集・いじめゼロなかよし集会などを通して、児童が主体となっていじめを追放しようという意識を育てる。	B	【達成状況】A14（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.9</td><td>100</td><td>83.1</td><td>100</td></tr><tr><td>98.5</td><td>100</td><td>86.2</td><td>91.7</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答率は昨年度より3.1%上回り、数値目標を達成した。特に、児童の肯定的回答率は昨年度より3.1%上回り98.5%、児童の肯定的回答率は昨年度より3.1%上回り98.5%であり、高い値を示している。 【次年度の方針】 ・①については、今後とも、本校のいじめ防止基本方針を全職員が共通理解したうえで、全校体制でいじめ根絶に取り組む。また、学校全体で情報を共有する。いじめ防止基本方針については、市教委の指針を踏まえ、いじめ防止基本方針を平成30年改訂・ホームページで公表した。これからも、日々の生活の中で、随時、様々な機会をとらえ、児童と積極的に触れ合い、その中から、様々な情報を得て、児童の悩みに気付いていくようにする。 ・②については、全校児童に対して、年間4回の教育相談週間を実施したり、児童一人一人の日常の様子を観察・支援したところ、児童は学校に居がいを感じた生活が送れたので、今後も、アンケート調査や教育相談、Q－Uを活用して、いじめの早期発見・解消に努める。学年懇談や学年便りにおいて、小さな課題についても学校の子供たちの様子として保護者に伝えるようにする。また、校内児童指導対策委員会を中心に、組織として、いじめの未然防止に向けた取組を充実させる。 ・③については、これからも、いじめ根絶標語の募集・いじめゼロなかよし集会などを通して、児童が主体となっていじめを追放しようという意識を育てる。今後も、道徳の授業や教育相談を充実させながら、いじめ根絶に向けて指導していく。さらに、学校便りや学年便り、校内掲示等を通して、いじめ根絶に向けた学校の取組を発信していく。	児童	教職員	保護者	地域	96.9	100	83.1	100	98.5	100	86.2	91.7	
児童	教職員	保護者	地域													
96.9	100	83.1	100													
98.5	100	86.2	91.7													
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。	① 一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくる。 ② 努力している児童を称賛			【達成状況】A15（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>97.2</td><td>100</td><td>91.3</td><td></td></tr></table>	児童	教職員	保護者	地域	97.2	100	91.3					
児童	教職員	保護者	地域													
97.2	100	91.3														

【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	③ 不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行う。 ④ 教職員同士が情報交換を密に行うなどして児童理解を深め、一人一人のニーズを把握して、適切かつ迅速に指導・支援する。	B	<table><tr><td>98.5</td><td>100</td><td>91.9</td><td></td></tr></table> ・児童・保護者・教職員の肯定的回答率が、90%を上回り数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も、学習集団の育成の基本である学級経営を充実させ、学びに向かう集団づくりに取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指すとともに、全児童を全職員で見守っていく体制の充実を図る。 ・②については、これからも、努力している児童を称賛することで、自信をもって活動に取り組めるようにしていく。 ・③については、「学習のきまり」を活用し、全クラス共通理解のもと基本的な学習態度の定着を図る。また、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行う。さらに、学習内容定着度調査結果を分析し、課題を明確化し、児童指導と学習指導を関連付けながら、結果を生かして指導していく。 ・④については、教育相談週間を実施するとともに、日常的に児童と向き合い、一人一人の児童が居がいを感ずる学校生活を送れるよう今後とも支援に努める。	98.5	100	91.9									
			98.5	100	91.9										
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 再掲A13 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内支援委員会や児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者についての情報を共有する。 ② 児童の学力・学習・生活状況をきめ細かに把握し、児童の実態に応じた指導に努めるとともに、家庭と連携・協力して困り感の解消等に取り組む。	B	【達成状況】A13 (○) <table><tr><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度同様に 100%であり、数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、これからも、特別な支援を必要とする児童や保護者についての情報を共有するとともに、児童の学習訓練を徹底させ、学習・生活の基礎・基本の定着を図れるよう支援を行う。ユニバーサルデザインの視点に立った授業展開を行い、全教室統一された掲示を行い、共通理解のもと、学習意欲の向上を目指す。 ・②については、校内支援委員会を活用するとともに、今後も教育相談の時間を確保するなどし、児童一人一人のニーズを把握していく。これからも児童理解を深め、家庭との連携のもと指導にあたり、さらに信頼関係を築いていく。	児童	教職員	保護者	地域		100				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	100														
	100														
A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気をつくる。 ② 学校生活全体を通して、児童が活躍する場、発達段階に応じて主体的に活動する場を意図的に増やしていく。 ③ <u>学びに向かう学級集団を育成するため、一人一人の学習意欲を高める工夫を</u>するとともに、互いに認め合う安心感のある学級経営に努める。 ④ 全教職員共通理解のもと、3つのあ「あんぜん・あいさつ・ありがとう」の指導にあたる。 ⑤ 不適切な言葉遣いは、「その都度」、「その場で」指導することに全校体制で取り組み、教師が範を示す。	B	【達成状況】A17 (○) <table><tr><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>90.9</td><td>100</td><td>89.3</td><td>100</td></tr><tr><td>94.9</td><td>100</td><td>86.7</td><td>93.8</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が昨年度より 4 ポイント上回り、94.7%と高い値を示す一方で、保護者の肯定的回答率は昨年度より 1.6 ポイント下回り、89.3%である。 ・保護者にも評価されるような具体的な指導法等の工夫を検討する必要がある。 【次年度の方針】 ・①については、これからも居がいの感のある学級づくりや学校行事等を通して、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気のある学校の実現に向け、全教職員一丸となって取り組む。 ・②・③については、次年度も引き続き、学びに向かう学級集団を育成するため、児童一人一人の学習意欲を高める工夫をするとともに、互いに認め合う安心感のある学級経営に努める。 ・④については、全教職員共通理解のもと、3つのあ「あんぜん・あいさつ・ありがとう」において、児童が主体的に取り組めるように指導にあたる。	児童	教職員	保護者	地域	90.9	100	89.3	100	94.9	100	86.7	93.8
児童	教職員	保護者	地域												
90.9	100	89.3	100												
94.9	100	86.7	93.8												

			・⑤については、今後も、不適切な言葉遣いは、「その都度」、「その場で」指導することに全校体制で取り組み、教師が範を示す。												
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	① <u>学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る授業を目指して、ユニバーサルデザインの見地に立った授業を行ったり、児童同士が学び合う時間や場を設けたりするなど、指導方法の工夫・改善に取り組む。</u> ② 分かりやすい授業や、児童一人一人へのきめ細かな指導を行う。 ③ 発達の段階に応じて、宿題を適切な量にするとともに、家庭での協力を働きかけ、家庭学習の習慣付けをする。	B	【達成状況】A18 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>97.9</td><td>100</td><td>88.1</td><td></td></tr><tr><td>98.5</td><td>100</td><td>93.7</td><td></td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率が、90%を上回り数値目標を大きく達成した。特に、児童の肯定的回答率は昨年度より0.6%上回り98.5%、教職員の肯定的回答率は昨年度同様に100%であり、高い値を示している。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、学び合う時間や場を意図的・計画的に設けたり、ユニバーサルデザインの見地に立った授業を行ったりするなど、全教職員共通理解のもと、分かる授業・楽しい授業を目指して学習指導に当たる。 ・②については、分かる授業の実現のため、構造的な板書の工夫を研究し、課題（目標）の提示からまとめまでの板書の整理、授業の終末での学習内容や思考を振り返る活動の設定など、知識・技能の定着を図る指導を充実する。 ・③については、今後とも、教材研究と授業研究を中心とした授業力の向上に取り組み、習熟度別学習やT・T、ペア学習、かがやきルーム、のみどり教室の活用など学習形態を工夫し、児童一人一人を大切にしたいきめ細かな指導を継続して行う。今後も、学習習慣の個人差をうめるために、家庭や本人への更なる啓発を行う。	児童	教職員	保護者	地域	97.9	100	88.1		98.5	100	93.7	
児童	教職員	保護者	地域												
97.9	100	88.1													
98.5	100	93.7													
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① 学校に関わる職員全員がチームとなり、学校行事等において、協力して業務に取り組む。 ② 多様な専門性を有する学校スタッフの参画に当たっては、<u>学校経営方針の具現化に向けて活用する。</u> ③ <u>児童の実態把握や支援方策、役割分担について、教員と学校スタッフが共通理解する。</u> ④ ミラ임掲示板を活用し、学級担任との連携・分担について、それぞれの役割を明確にしつつ、適切かつ適正な教育活動が行われるよう、円滑なコミュニケーションを図る。	B	【達成状況】A19 (◎) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度より4.3%上回り100%となり、数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も学年主任者会や学年会等の機能を生かし、教育活動の工夫・改善に向けた取組を継続するとともに、行事などの充実のため、反省を踏まえた行事の方向性を検討するなどして学校全体の活性化を図る。 ・②・③については、児童の実態把握などについて、学校に関わる職員全員が共通理解する時間を確保する。さらにこれからも、学級担任と学校スタッフやスクールカウンセラーが連携し、適切かつ適正な教育活動が行われるようにする。 ・④については、教育目標実現のため、適切かつ適正な教育活動が行われるよう、多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションに取り組む。	児童	教職員	保護者	地域		95.7				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	95.7														
	100														
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 出退勤記録 全体アンケートの「学校は、教職員の	① 教職員は、勤務時間（退勤時刻を意識する。）を意識して、業務の効率化に取り組む。 ② 授業時間の確保に努め、前年度の反省や各行事の記録を生かしながら教育課程を実施する。 ③ 学校スタッフと教員との<u>連携・分担把握</u>に留意し、教員の業務を縮減する。	B	【達成状況】A20 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>82.6</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度より17.4%上回り100%となり、数値目標を大きく達成した。 【次年度の方針】 ・①については、今後も、出退勤管理システム等を有効に活用しながら勤務時間（退勤時刻を意識する。）を意識して、	児童	教職員	保護者	地域		82.6				100		
児童	教職員	保護者	地域												
	82.6														
	100														

勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	④ <u>事前の打合せや事後の振り返りをしっかりと行い、教員の業務を縮減する。</u> ⑤ ICTを活用し、職員会議や校内掲示板などにおいて、時間短縮や業務削減を行う。	業務の効率化に取り組む。 ・②については、充実した教育活動の実施に向け、行事の精選にも努める。さらに、週案等により時数を管理するとともに、各行事等の反省を生かしながら各種計画を設定する。 ・③については、これからも校内支援体制を整備するとともに、事前の打合せや事後の振り返りをしっかりと行い、教員の業務を縮減できるよう取り組んでいく。 ・④については、昨年度に引き続き、教職員が児童と向き合う時間の確保に向けて、行事の振り返りや中間評価を活用する。 ・⑤については、今後とも、業務の内容や方法を積極的に見直しICTを効果的に活用する場面を増やしていくことで、一層の業務の効率化を図る。												
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① <u>教職員の乗り入れ授業（中→小）を積極的に行い、中学校への移行をスムーズにする。</u> ② <u>地域学校園における共通の取組（ドッジボール集会・運動会のソーラン・給食マナー週間等）を推進する。</u> ③ 地域学校園において、中学校と連携を取りながら、「あいさつ運動週間」を実施する。	【達成状況】A21（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>92.7</td><td>100</td><td>83.3</td><td>100</td></tr><tr><td>79.6</td><td>100</td><td>76.8</td><td>83.3</td></tr></table> ・昨年度と比べ、教職員の肯定的回答率が100%である一方、児童、保護者、地域の肯定的回答率は昨年度より大幅にポイントを下げている。特に、児童の肯定的回答率は昨年度より13.1%下回り79.6%、保護者の肯定的回答率は昨年度より6.5%下回り76.8%となり、数値目標を達成できなかった。 ・保護者周知に向けての指導を継続していく必要性がある。 【次年度の方針】 ・①については、引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら、教職員の乗り入れ授業や宮っ子チャレンジウィーク等、小中一貫教育・地域学校園の小中の交流を進めていくことで、中学校生活への疑問・不安の解消を図る。 ・②については、今後も実施方法を工夫しながら、地域学校園における共通の取組（ドッジボール大会・運動会のソーラン・給食マナー週間等）を推進する。 ・③については、児童の正しい言葉遣いと挨拶が定着するよう、今後も雀宮地域学校園で連携し、児童生徒指導に協働的に取り組む。	児童	教職員	保護者	地域	92.7	100	83.3	100	79.6	100	76.8	83.3
児童	教職員	保護者	地域											
92.7	100	83.3	100											
79.6	100	76.8	83.3											
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答80%以上	① 土曜授業、「うつのみやオープンスクール」を含め、学校公開を年間2回以上実施する。効果的な学校開放のあり方を工夫する。 ② <u>学校支援ボランティアを広く募集し、教育活動の充実を図る。</u> ③ <u>P T A、地域協議会、地域学校園、近隣高校などと連携を図りながら、地域・家庭と共働して教育活動の充実を図る方策を工夫する。</u> ④ 学校だより、学年だよりなどの定期的な発行に加え、ホームページを定期的に更新するなど、積極的に情報発信する。また、地域協議会等の活動について、より一層効果的な広報を行う。	【達成状況】A22（○） <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.5</td><td>100</td><td>89.7</td><td>100</td></tr><tr><td>96.3</td><td>100</td><td>79.3</td><td>81.3</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度同様に100%である一方、児童、保護者、地域の肯定的回答率は昨年度よりポイントを下げている。特に、地域の肯定的回答率は昨年度より18.7%下回り81.3%となったが、数値目標は達成することができた。 ・コロナ禍においても、地域の教育力を生かした特色ある教育活動実施するための工夫が必要である。 【次年度の方針】 ・①については、土曜授業、「うつのみやオープンスクール」を含め、学校公開を年間2回以上実施し、児童の活動状況を参観できる機会を位置付け、P T Aや地域住民への積極的な学校公開を進め、地域とともにある学校づくりに努める。 ・②については、今後とも、地域の人材や企業や学生を積極的に活用していく。また、学習支援ボランティアを募集するなどして教育活動の充実を図る。 ・③については、新型コロナウイルス感染症の動向を見据えながら、水泳競技大会や陸上競技大会の練習において、地域にある近隣高校等との連携の可否について検討する。 ・④については、学校のホームページの定期的な更新、学校だより、学年だより、地域協議会だよりなどを定期的に発行	児童	教職員	保護者	地域	96.5	100	89.7	100	96.3	100	79.3	81.3
児童	教職員	保護者	地域											
96.5	100	89.7	100											
96.3	100	79.3	81.3											

			し、学校の情報を発信する。保護者や地域住民の方へ情報提供を行うことで学校の方針や取組を理解してもらえるよう努めていく。														
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 再掲 A 2 2 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 8 5 %以上	① 各学年とも地域ボランティアや「街の先生」など、外部指導者を招いての授業を実施する。また、学習支援ボランティアによる活動、雀老連との交流学习の効果的な実施を工夫する。 ② 児童や地域の実態を踏まえ、外部指導者や学習支援ボランティア、雀老連との授業を計画的に教育課程に組み入れ編成したり、改善を行ったりする。 ③ 授業参観やフリー参観、学級懇談会を行ったり、「学校だより」や「学年だより」、HPに児童の活動の様子などを掲載したりして情報公開に努め、家庭・地域・企業等と協力を図れるようにする。	B 【達成状況】A22 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.5</td><td>100</td><td>89.7</td><td>100</td></tr><tr><td>96.3</td><td>100</td><td>79.3</td><td>81.3</td></tr></table> ・児童、教職員の肯定的回答率は昨年度から変わらず高い値を示しており、数値目標を達成することができた。一方で、保護者の肯定的回答率は昨年度より 10.4 ポイント下回り 79.3%、地域の肯定的回答率は昨年度より 18.7%下回り 81.3%となった。 ・保護者や地域にも評価されるような具体的な指導法等の工夫を検討する必要がある。 【次年度の方針】 ・①については、地域安全マップ作り・校外学習引率等、学習支援ボランティアの協力を得て児童の指導にあたるなど、教育活動の充実を図る。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、雀老連による交流を計画的・効果的に取り入れていく。 ・②については、これからも、PTA、学校支援ボランティアを広く募集し、教育活動の充実を図るについては、高い専門性を有する人材の参加を積極的に進めるとともに、地域の各種団体や学校支援ボランティアの支援を得た取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。 ・③については、家庭・地域・企業等の教育力を生かした教育活動を展開できるように努めるとともに、各種便りやHPで児童の様子を公開し、協力を図れるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	96.5	100	89.7	100	96.3	100	79.3	81.3			
児童	教職員	保護者	地域														
96.5	100	89.7	100														
96.3	100	79.3	81.3														
A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 8 0 %以上	① 災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、避難訓練等の危機管理に関する情報を、保護者や学校施設利用者に周知する。 ② 全教職員が毎月の安全点検を行い、利用する人が安全に活動できる環境づくりに取り組む。 ③ 校舎内外の整備保全や、教材教具の整備に努め、学習意欲を高めるとともに、学習内容に沿った教室掲示を心がけ、学びに向かう環境を整備する。	B 【達成状況】A24 (○) <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td></td><td>100</td><td>91.1</td><td>100</td></tr><tr><td></td><td>100</td><td>85.6</td><td>86.7</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が昨年度同様に 100%である一方、児童、保護者、地域の肯定的回答率は昨年度よりポイントを大幅に下げている。特に、保護者の肯定的回答率は昨年度より 5.5%下回り 85.6%となったが、数値目標は達成することができた。 【次年度の方針】 ・①については、昨年度に引き続き、災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、避難訓練等の危機管理に関する情報を、保護者や学校施設利用者に周知する。 ・②については、今後とも校舎内の巡視をするとともに、月 1 回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い、児童に好ましい学習環境の整備に努める。特に、環境が人をつくることを意識し、毎日の清掃活動に主体的に取り組ませる。 ・③については、これからも施設・設備の点検・修繕を、日常的・定期的に行い、危機の未然防止の対策（修繕・整備）として、迅速に対応する。今後も、予算の増額を市教委に要望するとともに、予算の計画的な活用をさらに進める。	児童	教職員	保護者	地域		100	91.1	100		100	85.6	86.7			
児童	教職員	保護者	地域														
	100	91.1	100														
	100	85.6	86.7														
A 25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 学習と生活アンケート 宇都宮市、学習と生活についてのアン	① 情報教育担当者や学校図書館教育担当者を中心として、職員研修の一環として ICT 機器や図書等の環境整備を行う。 ② 学校図書館司書業務嘱託員を中心として、学級担任や宇都宮市南図書館と連携し、学習内容に沿った本	B 【達成状況】学習と生活アンケート (○) <table><tr><th>児童</th><th>3 年生</th><th>4 年生</th><th>5 年生</th><th>6 年生</th></tr><tr><td>本校</td><td>39.3</td><td>66.0</td><td>64.6</td><td>81.8</td></tr><tr><td>宇都宮市</td><td>56.4</td><td>61.5</td><td>65.0</td><td>71.4</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は、3 年生と 6 年生で数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、G I G A スクール構想の推進に伴い、今年	児童	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	本校	39.3	66.0	64.6	81.8	宇都宮市	56.4	61.5	65.0	71.4
児童	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生													
本校	39.3	66.0	64.6	81.8													
宇都宮市	56.4	61.5	65.0	71.4													

	ケートの「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」 ⇒児童の肯定的回答宇都宮市平均以上	や児童にとって魅力のある本を用意し、読書意欲を高めるような環境を作る。	度中に1人1台タブレット型端末が使える環境が整備される。また、学校図書館教育担当者と連携を図りながら、読書への意欲を高める環境作りに努める。これからも、読書週間に委員会活動を通して読書への関心・意欲を高める。 ・②については、地域にある市南図書館などの、地域の教育資源を生かした教育活動が展開できるように努める。次年度も継続して、教育目標実現のため、地域協議会や学校支援ボランティアとの連絡・調整を密に行い、朝の読書活動を効果的に推進する。												
本校の特色・課題等	B3 恵まれた自然環境を利用しながら、体験活動を通して地域に学び、地域のすばらしさに気づき、大切にしていこうとする児童を育成する。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、のみどり活動を通して、地域の人々と連携協力して、児童の健全育成に努めている。」⇒教職員の肯定的回答85%以上	① (種まき、田植え) 稲刈り、餅つき、繭玉づくり、どんどこ焼きなど、農業体験活動「のみどり活動」を年間を通じて実施し、自然に親しみ、地域を大切にしていこうとする自覚をもった児童の育成を図る。 ② PTAや地域協議会、のみどり隊との連携を十分に図り、学校・家庭・地域が協働して教育環境の整備に努める。 ③ 社会科や理科、生活科、総合的な学習の時間等における学習や、草花・野菜等栽培活動を通して、自然や生命を尊ぶ心を育てる。	【達成状況】B3 (◎) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.2</td><td>100</td><td>97.8</td><td>100</td></tr> <tr> <td>97.4</td><td>100</td><td>94.2</td><td>100</td></tr> </tbody> </table> ・児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答率が数値目標を大きく達成した。 ・全体アンケートの「学校は、のみどり活動を通して、地域の人々と連携協力して、児童の健全育成に努めている。」は、昨年度と同様、高い数値であった。 【次年度の方針】 ・①については、新型コロナウイルス感染症の状況を見定めながら、引き続き、地域の教育力を生かした体験活動である「のみどり活動」を年間を通じて実施し、取り組んでいく。 ・②については、地域協議会において、学校経営方針をより浸透できるように十分な説明を行うとともに、課題を明確にし、課題解決に向けた話し合いを充実させる。また、今年度の反省をもとに、より効果的に推進できるよう、地域学校協働活動推進員との連携を図るとともに、教職員の役割分担を整理する。これからも保護者、地域と連携・協力した取組を進め、特色ある学校づくりを行う。 ・③については、次年度も継続して、児童に様々な方々の協力で体験活動ができるという意識をもたせ、地域のすばらしさに目を向けられるようにする。また、草花・野菜等栽培活動や学習活動を通して指導の充実を図る。	児童	教職員	保護者	地域	97.2	100	97.8	100	97.4	100	94.2	100
児童	教職員	保護者	地域												
97.2	100	97.8	100												
97.4	100	94.2	100												

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

数値指標を、「肯定的回答 80%以上」、「肯定的回答 85%以上 (A17, A 19, A23, B3)」、「児童の肯定的回答宇都宮市平均以上 (A25)」に設定したが、各質問項目について、教職員・保護者・地域住民・児童生徒の回答のうち、今年度（令和2年度、9割（90.5%）以上の項目（全項目 85 のうち 77）で達成できた。さらに、児童の肯定的回答では、28 項目中、26 項目において 90%を上回り、学校生活への満足度の高さが認められる。

宇都宮市の全小学校（68 校）の全市共通肯定的回答と比較すると、77.3%の項目（全項目 75 のうち 58）で宇都宮市全小学校（68 校）の平均を上回っている。中でも、「児童は、学校行事や縦割り班、児童活動に主体的に取り組んでいる。」（96.8%）、「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」

（96.5%）、「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」（94.3%）などの全体アンケートの保護者の肯定的回答率が高く、コロナ禍において学校が児童へ指導してきた「できないではなく、工夫してやる」「3密にならないようルールを守る」「偏見をもたずに他人に優しくする」等の取組が児童に浸透しているとともに保護者にも理解されていることが分かる。

全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者の肯定的回答率は81.9%であり、「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」については、保護者の肯定的回答率は76.8%、児童の肯定的回答率は79.6%となった。また、「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の保護者の肯定的回答率は79.3%、地域住民の肯定的回答率は81.3%となり、いずれも肯定的回答率が大きく下がっている。これは、新型コロナ

ナウウイルス感染症拡大防止のために生活や活動が制限されたことが大きく影響していると考えられる。次年度は、コロナ禍における生活様式に配慮しつつ、「すなおで かしこく たくましく 責任果たす ひがしの子」の育成のため、あいさつの習慣化と児童が自ら主体的に行動できるように、地域の教育力を生かした教育活動が展開できるように努める。

全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」の保護者の肯定的回答率は 86.2%，児童の肯定的回答率 98.5%であり、「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」については、保護者の肯定的回答率は91.9%，児童の肯定的回答率は 98.5%となっており、いずれも肯定的回答率が高い水準で上昇している。今後もいじめ防止基本方針を全職員が共通理解したうえで、全校体制でいじめ根絶に取り組むとともに、学びに向かう集団の育成に取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指していく。それを基盤として、規範意識の醸成、いじめを許さない態度の育成、不登校対策の取組の充実に確実に取り組む。

7 学校関係者評価

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、様々な場面において十分に配慮した学校生活が求められている。そのような状況においても、学校行事等、いろいろと考えながら努力している先生方の様子が感じられる。今後とも学校と地域が更に一体となって、児童の健全な育成と安全・安心な環境の整備に努めていく必要があると思う。

全体アンケート（中間評価）「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」の教職員の肯定的回答率 100%とあるように、全体的に学校に活気があることがすばらしい。コロナ禍においてこそ続けて欲しいと思う。

各教室をのぞいてみると、児童全員がマスクをきちんとして授業を受けており、その姿がとても悲しく見えた。早くコロナが終息し、今までと同じような学校生活に戻ればいいなと心から願っている。

10月末にあいさつ運動が実施されたが、元気にあいさつができた児童もいた半面、遠慮して声が出せない児童が多かったように感じた。下校時の立哨の際には、元気に挨拶してくる児童が多いと実感している。

今回の新型コロナウイルス感染症に係る臨時休校の折は、学校と子どもの家、地域ボランティア等の間で、情報の共有が図れていない場面が見られた。過去に例を見ない難しい状況であることは理解するところだが、今後は一層、児童の健全育成に向けて、保護者、地域、学校が一体となることを期待する。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

次年度も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色などについて積極的に公表しながら、今年度の取組を継続・発展させ、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域ぐるみで学習環境を整えていく。

コロナ禍における教育活動について、様々な行事や活動が制限されているところであるが、「できない。やらない。」ではなく、「どのように工夫すればできるか。」を模索し、安全・安心を確保したうえで児童の活動の場を積極的に確保していく。特に、今年度の学校アンケートで肯定的回答率が低かった「小学校と中学校が連携した小中一貫教育・地域学校園の取組」や、「家庭・地域・企業等と連携した教育活動や学校運営の充実」など、地域の教育力を積極的に生かした活動を安全に十分に配慮しながら充実させていく。

令和2年度中に、GIGAスクール構想（1人1台タブレット型パソコン）に必要な環境が整うことを受けて、次年度からは、1人1台タブレット型パソコンの授業における効果的な活用方法について研究するとともに、それに必要な教職員のICT活用指導力の向上に全校体制で取り組む。また、児童のICT活用能力や情報モラルの育成に計画的に取り組んでいく。

これからも、地域や保護者からの建設的な声を学校運営に反映し、学校改善を図りながら、教育活動の充実に努める。